NPO ピースサポート協会　ニュース　第4号

ピースサポートとは「心の平和支援」の願いが込められています。　　２０１３年（平成２５年）５月

発行　NPO 法人 **ピースサポート協会**
〒379-2143　群馬県前橋市新堀町 190 番地 1
TEL/FAX　027-265-2277
E-mail:info@peace-sa.co　URL:http://peace-sa.com

東日本大震災から２年、３月 11～12 日被災地支援活動のご報告！

13 月 11 日、私たちは震災 2 年たった**福島県飯館村、南相馬市浪江町 6 号線の警戒区域**まで行きました。飯館村では除染された放射性廃棄物の土のうが山積みされ、いまだに誰も住むことができない状況でした。そして南相馬市から浪江町の国道 6 号線を下ると、原発事故放射能の影響で警戒区域のために通行止めされていました。車内の放射線の線量計は高くなり警報ブザーが鳴り続け、本当に目に見えない放射能の恐ろしさを感じました。この狭い日本国土、美しい福島県のふるさとの東京都ほどの地域が、人も生物も近寄れない廃墟の国土が生まれてしまったのです。私たちは、未来の子供たちへ、安心できる住みよい日本の環境を渡してあげられるのでしょうか。

飯館村には除染した放射性廃棄物の山

東松島市大曲浜地区の被災地で、震災２年の 3 月 11 日午後 2 時 24 分、祖父母と母そして幼い弟を津波で無くしてしまった伊藤健太くんの太鼓演奏が行われました。「震災から 2 年たった日に、弟がほしがっていた青い鯉のぼりをたくさんあげることができました。犠牲になった家族の思いを忘れず生きていきます！」と力強く太鼓を演奏してくれました。私たちも青い鯉のぼりを送って空高く上げて、共に歩んでいきたいと思います。

石巻市雄勝町立浜の皆さまを訪ねました。2 年目の寒い冬を越してホタテ漁もひと段落して、これからワカメ漁がはじまります。立浜と大浜の方々みんな津波で家を亡くし、船も無くしやっと海から船を引き揚げ修理して漁ができるようになりました。雄勝の町並みは 20 メートルもの大きな津波ですべて流され多くの犠牲者と共に壊滅してしまいました。立浜の末永自治会長さんは「漁はできても生活が成り立ちません。あと 2 年後には高台へ集団住居の計画がありますが、どうなるのかまだ具体化していません。」と、物静かな末永会長さんの言葉に皆さんの思いが伝わってきました。私は、おいしいワカメが獲れたものを送って頂き、少しでも産業復興のお手伝いをさせて頂きたいと話し合いました。4 月頃には雄勝の皆さんの新鮮なワカメをお分けできると思います。多くの市民の皆さまのご協力を仰ぎ雄勝町の皆さまの産業復興、**「復興プロジェクト」**を実施していきたいと話し合いをさせて頂きました。被災地の皆さまが喜ばれる、これから私たちができる支援の在り方が拓かれたようで本当に感謝で一杯でした。

石巻市大川小学校を昨年 12 月 3 日に続いて訪ねました。児童 70 名と教員 9 名が津波で流され、いまだ 4 名の児童が行方不明、遺族会の方々の必死な捜索が続いています。遺族会の武山会長さんや遺族の方々は「今も 4 人の子供たちの捜索をしています。行政の協力を仰いで 4 月まで延長して川をせき止め探しています。多くの皆さまのよろしくお伝えください。」との言葉に胸が締め付けられます。なんとしても四人の子供たちが見つかるように祈る気持ちで一杯でした。大川小学校跡地には多くの犠牲者の慰霊塔が新しく建てられていました。

「原発にふるさとを奪われて！」

飯館村酪農家　長谷川健一氏　講演会実施

昨年 27 日(土)は足利市民プラザ 10 月 28 日(日)前橋市下川淵公民館と前橋市民活動センターPePo の会場、で NPO 法人ピースサポート協会主催により、「原発にふるさとを奪われて」と題して講演会が開催された。

昨年 3 月 11 日東日本大震災の時、福島原子力発電所の水素爆発（12 日）により、放射能被害を受けて 3 か月後、飯館村が計画的避難区域となった。その後、住むことができなくなって 1 年 7 か月、酪農で育てていた 50 頭もの家族同然であった牛を処分しなければならなかったことや、村中の農家の土地も放射能で作物が全滅になってしまったこと、政府や行政が放射能被害を過小評価し、被爆した恐ろしさも説明せず、敷地の一部の除染だけで済まそうとしていることなど、放射能でふるさとを奪われた福島県民の現実を、記録写真を写しながら講演した。

又、長谷川さんの酪農家の友人は「原発さえなければ」と書置きし自殺してしまったことなど、真に迫る状況を聞いた（足利 200 人）（下川 120 人）（PePo50 人）の参加者は、涙を浮かべて聞き入り「私たちは子孫のためにも、もっと福島原発のことを学んでいかなければならない」「東北の被災地のことを伝えよう」と噛みしめた。長谷川さんは、「どうか福島原発の真実を伝えて風化させないでほしい！」と訴えられました。

飯館村酪農家長谷川健一氏講演会の様子

東日本大震災　復興支援プロジェクト　にご協力をお願いします！

石巻市雄勝町立浜産の新鮮なワカメが獲れました！

4 月 12 日、雄勝町立浜へ「復興支援プロジェクト」の話し合いに行ってきました。私たちは東北石巻市の皆さんの「復興への願い」が一日も早く実現するよう支援活動に取り組んでいます。

集落（仮設住宅）を訪問し、対話を通じて被災地の方々に触れながら「復興への願い」を全国の支援者の皆さんと共有し、ご協力頂きながら「復興への願い」を実現化していくプロセスを歩んでいきたいと思います。

2011 年 3 月 11 日の東日本大震災により、壊滅的な被害を受けた石巻市雄勝町の人々。　2 年間の時を経ても、生活環境や漁業の復興は程遠く、「町が消えていく…」　雄勝町の漁業者の皆さまの本格的な復旧はまだまだこれからです。**＜ご支援者の皆さまへ＞「震災当時より真心のこもった支援を頂き本当に有難うございます。」「今年になってホタテ漁とワカメ漁ができるようになりました。」「雄勝湾で取れた私たちの美味しいワカメをご賞味ください！」**

（雄勝町立浜の仮設住宅の皆さまより）

２年目を迎えた 3 月 11 日、大事な家も船も家族も亡くしてしまった雄勝町立浜の皆さんは、海に沈んで壊れた船を引き揚げて修理し、共同で漁業の仕事を立ち上げました。仮設住宅の生活も苦しい中を、明るく元気に生きておられます。前向きに生きる雄勝町の皆さまに触れると、いつも私たちのほうが勇気を与えられます。

この度私たちは、雄勝湾で獲れた新鮮なワカメを販売させて頂く**「復興支援プロジェクト」**を企画させて頂きました。　どうぞ、多くの皆さま方にお声掛け頂き、石巻市雄勝町**「復興支援プロジェクト」**にご協力頂きますよう心からお願い申し上げます。　（主催者 NPO 法人ピースサポート協会）

雄勝町立浜のワカメ
一袋 300g
￥500 -
とても新鮮な本場のワカメです。雄勝のワカメは本当に美味しいですよ！温かいご支援をお待ちしています。

復興支援　雄勝ワカメの取扱い所

下記のところで求められます。

①前橋市 NPO ピースサポート協会 事務所
又は(雑貨屋 Ｋｉｉｔｏｓ（キートス） 店)
前橋南インター近し
〒379-2143 群馬県前橋市新堀町 190 番地 1
TEL 027-265-2277 携帯 090-1113-9200 久保田迄

② 前橋駅北口のエキータ　地下１F
東北復興支援 店舗**＜みちのく＞店**
（旅がらす本舗 清月堂 エキータ店）
前橋市表町２丁目 30－8　TEL 027-224-0039
（駐車場はエキータご利用で 2 時間無料）

③ 足利市民活動センター　３Ｆ事務所
〒326-0051　栃木県足利市大橋町 1 丁目 2006 番地 3　TEL 0284-44-7311

※　宅配便でもお届けできます。
但し、現地のわかめをボランティアでお届けしていますので、配達料を含み着払い、代引きのお支払いでご協力をお願いします。
ご連絡申し込みは、上記 ① の NPO ピースサポート協会事務所
027-265-2277
090-1113-9200
久保田へご連絡下さい。多くの皆さまのご支援ご協力を心からお願い致します。

「新鮮なワカメを食べて復興支援を」と話す久保田理事長

震災から２年、全国の震災避難者 34 万人、福島原発事故では 16 万人の人々が今も避難生活をしています。ガレキの撤去などは徐々に進んでいますが、避難されている方々の生活は一からの出発です。これから被災地の皆さまの求められる支援は、産業復興支援が不可欠です。さらに、福島原発事故の放射能汚染による「警戒区域」の人々は数十年？いや二度とふるさとの家には戻れません。私たちは、2 年前の３．１１の地震、津波そして原発事故の現実から目をそらさず、決して風化させることなく、未来の日本の国を築くためにも、一日も早い復興を目指して、被災地の方々と共に力強く歩んでいきたいと思います。多くの市民の皆さまのご協力を心からお願いいたします。

NPO 法人ピースサポート協会　久保田光明　拝

第２回　特集：福島第一原発事故の現状と私たちの未来は？

2013 年（平成 25 年）５月･第４号

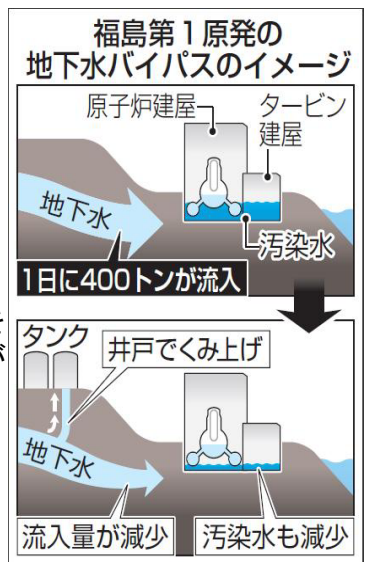
◆増え続ける汚染水 溶融燃料手つかず【Ｈ２５年３月４日】【福島第１原発の現状】

東京電力は１日、福島第１原発事故発生から２年を前に廃炉に向けた作業現場の状況を報道陣に公開した。放射性物質を含む汚染水は増え続け、敷地内には貯蔵タンクが立ち並ぶ。溶けた燃料をどうやって取り出すかはまだ検討段階で、長期的取り組みを着実に進められるかが課題だ。

１１月には４号機の原子炉建屋上部にある使用済み核燃料プールから１５３３体の燃料の搬出を始める予定で、クレーンを備えた新たな設備の建設が建屋のそばで進む。　４号機の燃料は別棟の共用プールに移送される。共用プールには容量の約９３％に当たる６３７７体の燃料が入っている。東電は十分に冷却された共用プール内の燃料の一部を、乾式キャスクという容器に入れて別の場所にある仮保管設備に移し、４号機の燃料を収容するスペースを確保する。仮保管設備には既にキャスクが届き始めている。

一方、保管中の汚染水は２６万立方メートル。貯蔵容量はあと６万立方メートルしかない。東電は２０１５年までに７０万立方メートル分のタンクが必要になるとして、今後増設を進める。

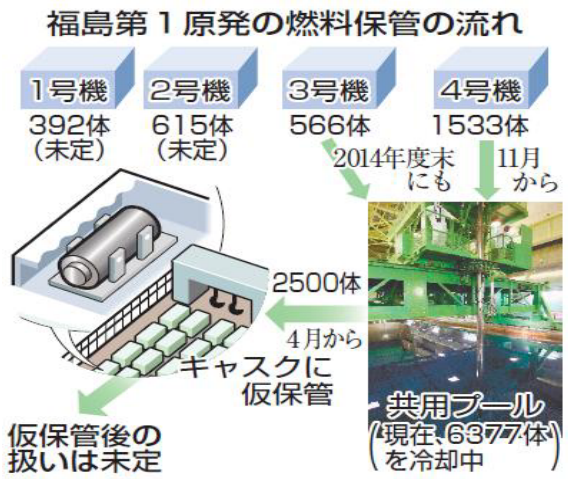
第１原発の高橋毅（たけし）所長は「溶けた燃料の場所の確認、取り出しはいつになるか分からない。米スリーマイルアイランド原発では１０年かかった。それより厳しい状態で、１０年以上かかると思う」と話した。（2013 年 3 月 4 日、共同通信）

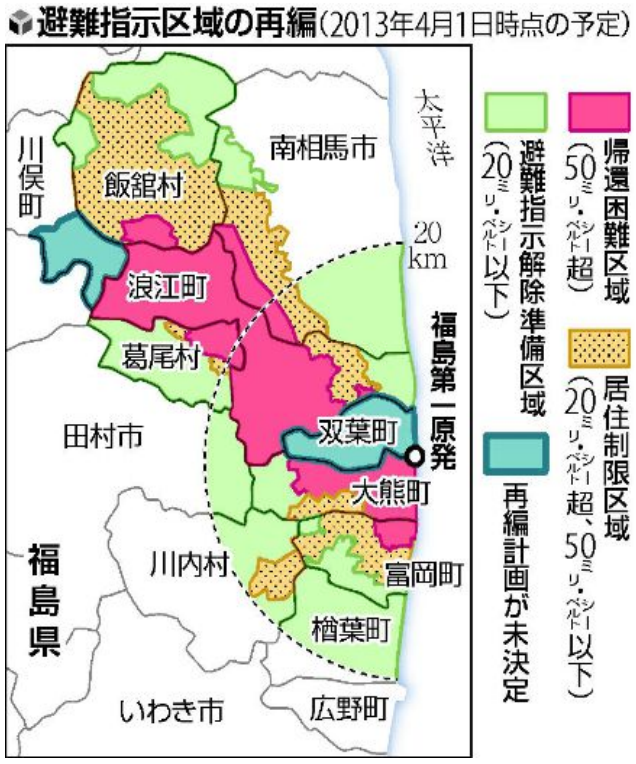


◆水漏れ箇所の特定難航　1号機【Ｈ２５年２月２５日】

東京電力は福島第１原発１号機の地下にある圧力抑制室周辺の破損状況や放射線量を把握するため、小型カメラなどによる調査をこのほど始めた。廃炉に向けて、汚染水が漏れている箇所を特定し、補修するための準備作業だが、これまでの調査では水漏れ箇所の特定には至っていない。　圧力抑制室は原子炉の下にあるドーナツ状の設備。圧力抑制室を収めるトーラス室には、床から高さ約５メートルまで汚染水がたまっている。原子炉冷却のために注水された水が配管を通って抑制室から漏れ出しているとみられる。……

（2013/2/25 共同通信）





◆福島県 原発事故放射能被害による避難者数　16万人（震災から１年９か月）

県内９万３８６４人、県外５万８６０８人　　福島民報 2012/12/11

県によると、東京電力福島第一原発事故と東日本大震災による県内外の避難者は約１６万人に上る。県内では６日現在、仮設住宅に３万２５７６人、借り上げ住宅に５万６８０６人が避難するなど計９万３８６４人が自宅以外で生活を送っている。　県外への避難者は１１月１日現在、５万８６０８人。今年３月の６万２８３１人をピークに減少傾向が続いている。

■避難区域再編　６市町村完了　　原発事故により、県内１１市町村に警戒区域などの避難区域が設定された。田村、南相馬、楢葉、川内、飯舘の五市町村では再編が済み、大熊町は１０日に帰還困難、居住制限、避難指示解除準備の三区域に再編された。残る町村でも放射線量などに応じて再編が進められている。

◆避難者機関へ線量ごとに安全指針…政府が年内に

（2013 年 3 月 11 日 読売新聞）

政府は、東京電力福島第一原子力発電所事故による避難者の帰還に向け、放射線の年間積算線量に応じた安全指針をつくる。　震災後、当時の民主党政権が年間積算線量を１ミリ・シーベルト以下に下げるとした長期的な除染目標が事実上の安全基準と受け取られ、帰還の障害となっているためだ。

国内外の有識者の意見を踏まえて原子力規制委員会が考え方をまとめ、政府が年内に取りまとめる。

政府は２０１４年春にも、避難指示区域のうち年間積算線量が２０ミリ・シーベルト以下の「避難指示解除準備区域」への帰還を認める方針だ。避難指示が解除されれば住民は帰還できるが、「１ミリ・シーベルトでないと安全ではなく、帰れないという感覚が被災者に生じている」（政府関係者）のが現状だ。　政府は長期的な目標として１ミリ・シーベルトの除染基準は維持する。一方で新たな指針は、年間積算線量が５ミリ・シーベルトや１０ミリ・シーベルトなど、線量の段階ごとに、安心して生活するために必要な対応策を示す。

原発を 即刻 ゼロ にするべきだ！

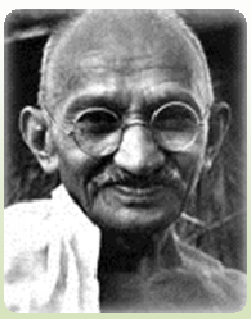
小出裕章助教授　講演記録　主旨

小出裕章 京都大学 原子炉実験所助教授

「福島第一原発事故で環境中に放出された放射性物質は、日本政府が IAEA に提出した数字で、セシウム 137 が広島原爆の 168 発分　ただし、この数字は過小評価、実際の放出量は、この数字の 2 倍～3 倍と推測される。広島原爆の約 1000 発分もの死の灰を、環境に放出した」「その結果、福島県の東半分を中心に、宮城県、茨城県の北部･南部、栃木県と群馬県の北半分、千葉県の北部、岩手県、新潟県、埼玉県、東京都の一部が、放射線管理区域にしなければならないほどの汚染を受けた」「この事態に政府は、一般人は 1 年間に１ミリシーベルト以上の被曝をさせてはいけないという法律や、１平方メートルあたり 4 万ベクレルを超えて汚染したものは持ち出してはならないという法律は守れないとして、法治国家にもかかわらず、自分たちが作った法律を反故にした」「使用済み核燃料の放射能のゴミは無毒化できない。100 万年にわたり隔離するしかない」「日本で初めて原発が稼働した 1966 年以来、ウランを燃やして核分裂生成物を生み出している。その累積量は、広島原発の 120 万発分に達している」「使用済み燃料の隔離問題は現在のところ、唯一、残されているのが地層処分案。しかし、地層処分も、日本では地震の問題がつきまとう」と懸念を表明した。小出氏は「100 万年も問題が続く原発を、子どもたちには残したくない」と語り、「愚かな選択をした私たちの責任として、原発を即刻ゼロにするべきだ」と、講演で訴えられました。

H24 年 9 月 29 日、佐野市文化会館で小出助教授の講演会に参加しました。原発専門家の立場で約 40 年間にわたり原発廃止の必要性を訴え、未来の日本いや住みよい地球を子孫に残すためにと必死な思いを聞きました。上記は、全国各地で講演されている小出助教授の講演主旨を記したものです。一人でも多くの人と共に原発の真実を知って学んでいきたいと思います。　NPO ピースサポート協会久保田拝

マハトマ･ガンジー



ガンジー翁は、祖国インドで宗教の違いを超えた民族自決の精神を培い、イギリスへの経済的依存からインドを脱却させ、国民を救うために生涯を尽くした。投獄と釈放を繰り返し受け、財産は身にまとった一枚の布と杖だけになっても抵抗運動の指導を継続し、断食という手段で身をもって民衆の感情の過熱を制しようとするなど、超人的な努力と自己犠牲を払った偉人でした。

ガンジー翁の名言･七つの社会的大罪

「２０世紀末　資本主義の教訓」

1 原則亡き政治　2 道徳亡き商業　3 労働亡き富　4 人格亡き学識　5 人間性亡き科学　6 両親亡き快楽　7 献身亡き信仰

非暴力は人間に与えられた最大の武器であり、人間が発明した最強の武器よりも強い力を持つ

束縛があるからこそ　私は飛べるのだ　悲しみがあるからこそ　高く舞い上がれるのだ
逆境があるからこそ　私は走れるのだ　涙があるからこそ　私は前に進めるのだ

◎現代に生きる私たちは，それぞれの立場でこの教訓を噛みしめて，家庭･社会･国家･世界の平和に向けて歩んでいきたいと思います。

一緒に平和活動へのサポーターになりましょう！

年一口￥3，000-の支援（サポート）が世界中に拡がっています。

東日本大震災も世界中の国々から支援を寄せて頂いています。今や地球が一つの家族です。私たち日本人も、思いやりの心と行動を、世界中に示す時代が来たのです。
ピースサポート協会は、多くの皆さんと共に、思いやりあふれる家庭や社会を拡げ、東日本の被災された方々や、海外の貧困生活に苦しむ子供たちへの支援を推進して行きたいと願っています。どうぞ皆さん、私たちと一緒に平和支援のサポーターになりましょう。あなたの支援（サポート）が世界中に拡がっています。

世界中の幸せは一人の人の心から
NPO 法人
ピースサポート協会
事務所　〒379-2143 群馬県前橋市新堀町 190 番地1
TEL/fAX　(027)265-2277　　携帯 090-1113-9200
E-mail info@peace-sa.com　http://peace-sa.com